

第5章 総合評価

次期ごみ処理施設整備に伴う環境影響要因及び建設予定地の地域特性を考慮した調査項目について、建設計画地及びその周辺地域において、現地調査等による現況把握を実施し、予測、影響の分析を行った。影響の分析は、「事業の実施による影響が、実行可能な範囲内で回避され、又は低減されているものであるか」及び「生活環境の保全上の目標と予測の結果との間に整合が図られているか」の観点から実施した。

その結果、次期ごみ処理施設の煙突からの排ガスについては、全ての項目が生活環境の保全上の目標と整合しており、大気汚染防止法等の排出基準より厳しい自主基準を厳守し、機器の維持管理や運転管理を適切に行うことなどにより、生活環境への影響を低減できると評価した。

その他の環境要素については、次期ごみ処理施設の建設による影響は小さく、環境保全措置を適切に実施することにより、生活環境への影響を回避または低減できると評価した。

また、現段階で予測し得なかった環境に影響を及ぼす事態が発生した場合には、その時点での状況に応じ、必要な環境保全措置等の検討を行う。

以上のことから、次期ごみ処理施設の設置に伴う環境影響は、実行可能な範囲内で回避または低減できることから、生活環境の保全に支障がないものと評価する。